

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年1月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所では四季折々の季節の行事を大切にしています。ふだん屋内で過ごすことの多い利用者様が季節のうつろいを実感できるように、フロアや玄関ホールも季節に応じた飾り付けや利用者様の作品を展示しています。また誕生日会や外食、定期的な保育園児の訪問など、利用者様にとって気分転換や楽しみを持つ機会を設けています。時には外食や外出が心地よい刺激となり、これをきっかけとして生活の活性化、機能回復や向上に繋がることがあります。当事業所では各ユニットで年間目標を立て、支援、実践に取り組んでいます。また職員も個々に年間目標を立て、利用者様が施設理念に基づいた暮らしを送る(温かい環境、雰囲気の中で自分らしく生活する)ことができるよう支援に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

共用空間の雰囲気作りや入浴、食事、排泄など利用者一人ひとりのニーズ・意向・思いを大切に臨機応変に対応している。職員・管理者は、常に「自宅で過ごしているようにゆったりと、その人がその人らしく暮らしていただけるように」を念頭に話し合っており、入所時に、重度化した場合の事業所の方針を説明し、定期的に、又その時々で利用者・家族の意向の再確認を行っている。終末期には、医師から現状、今後の変化などの説明があり、家族・医師・職員が協力して取り組んでいる。近所のレストランの協力を得て、全員で出かけて誕生会を行ったり、季節毎の花見に出かけている。近所を散歩したり、利用者の助言から庭の畑を耕作して収穫をしたりと外の空気に触れる機会を作り、利用者の楽しみとなっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは年間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を作り実践に努めている	外部評価のアドバイスを受けて、職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げた。職員・管理者は、常に「自宅のようにゆったりと、その人らしく暮らしていただけるように」を念頭に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、民生委員や福祉推進委員を通して情報の発信や交流について話し合っている	民生委員の声かけで、毎年、こども神輿が寄ってくれるようになった。車椅子点検、読み聞かせ、習字などのボランティア訪問があり、中学生の職場体験も受け入れている。近所の方から野菜が届くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している。行政、地域、家族とさまざまな分野から出席、情報提供や意見交換、提案があり事業所のサービス向上に役立っている	市職員、消防署員、地域住民などの参加を得て、状況報告など行っている。会議後に避難訓練に参加してもらい意見を聞いている。参加者から意見や提案が出されているが、サービスに活かすまでには至っていない。	会議で出された多くの意見や提案を、今後のサービス向上のために活かせるように職員間で話し合っ欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に系列事業所が5つあり、市町村担当との連携は総ホーム長が統括している。また市の介護支援連絡会で市町村担当と連携を図る機会がある。消防署からは円滑に連携が図れるようにガイドブックが配布されており、救急連絡シートを事前に作成している。	市に利用者の個別の相談に訪問した時やケアマネ連絡会に参加した時に情報交換を行っている。昨年、市徘徊高齢者SOSネットワーク協力機関に認定された。事業所から依頼して非常放送設備を設置してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサー、柵の位置など適時見直しを行い、他に手だてを考えるなど検討する。玄関は日中施錠せず開放し、ユニット間も自由に行き来できる	昨年の外部評価の結果を受けて、書類を見直した。つなぎ服についても職員間で話し合い工夫することで解除することが出来た。定期的に拘束、虐待の勉強会を行い、申し送りでも事例をあげて説明し拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別または全体で研修を行い、職員に周知徹底している。言葉の虐待(禁句)においては、全職員に禁句リストを配布し防止に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。(訪問の多い土日は、どちらかが勤務)他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる	年1回家族アンケートを実施して、意見を聞いている。家族の来訪時に経過記録を見せながら状態を報告し意見や要望を聞いている。家族の来訪が多い週末は、管理者が出勤し直接話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に随時事務所で話を聞く機会を持っている	月1回の全体会議や年2回の個別面談にて意見を聞いている。管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努め、毎日の申し送り時にも、話を聞いている。職員の発案で、トイレの中扉を付けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市の介護支援専門員連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを忘れずに、本人の話に耳を傾け、お互いに冗談を言い笑い合えたり、相談に乗ってもらうなど助け合いながら共に生活が送れるよう関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝え共有している。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会がある。また家族の協力のもと、外出や外泊の機会を持っている。	家族や本人から情報を得ている。面会時には、再訪をお願いしている。会いたいと言われた場合は、家族に連絡して、希望が叶うよう支援している。馴染みの場所へは、家族の協力をお願いして出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。行事計画を立て、月に数回合同の行事があり交流している。他にユニット別の行事や創作レクなど利用者同士で関わりながら行っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人や家族の相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや思いを傾聴し、可能なことは対応している。困難時は、他のスタッフと相談し意見を聞いて対応している。	寝る前、入浴時、空き時間などゆったり1対1になれる時間に思いや意向を聞いている。困難な場合は、表情やちょっとした態度からの気づきで把握している。利用者の思いは、申し送りなど職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の暮らし方を観察し、記録に残し、変化などを見て把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人その人の表情や言動を見て、状態を把握する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケアカンファレンスを行っている。ユニットスタッフで見直しや変更など話し合い、現状に合った計画書を作成している	担当者がモニタリングを行っている。電話や来訪時に尋ねた家族の思いや医師意見を反映し、職員間で話し合い介護計画を作成している。毎月の会議で話し合っている。状態の変化時には、その時々で作成し直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に気になった事は記録に残し、他のスタッフも把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズが実現できるように、レクや外出支援、訪問マッサージなど、本人や家族の状況に応じて取り組んでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている	かかりつけ医等の受診は、原則として職員が同行している。家族のみの場合は、状態を書いた手紙を渡し、医師からも返書を得ている。協力医の訪問は月2回だが、いつでも連絡がとれ、必要時の緊急訪問も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の变化に気づき、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。事業所では、定期的に看取りケアの研修を行っている	入所時に事業所の方針を説明して、定期的にも意向の確認を行っている。終末期には、医師から現状、今後の変化など家族に説明している。家族の宿泊もでき、一緒に看取ったこともある。医師が情報シートを作成し、医療機関に連絡をするなど緊急時に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施。地域の役員も訓練に参加している。土砂崩れや水害など災害に応じた対策を地域や行政、消防署と話し合っている	定期的避難訓練を行い、消防署の意見や訓練後に問題点を洗い出して、職員間で共有している。運営推進会議後に訓練を行うことで、地域の代表者の参加を得ているが、地域住民の参加までには到っていない。	地域住民を巻き込んだ避難訓練が行えるよう、もう一歩踏み込んだ工夫や働きかけを期待したい。

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など介助時、自尊心に配慮した声かけや対応を行っている。内部研修を行い、職員が常に意識を持つように努めている	排泄・入浴時は必ず扉を閉めたり、居室のドア前にはのれんを掛けたりするなどプライバシーに配慮している。食事を無理強いしない、頻回のトイレ要求にも応えるなど利用者の気持ちに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が思いを気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定が困難な場合は、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じてその都度本人と話し合い、希望に沿えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問し、本人と相談しながら希望に沿った髪型にカットしたり次月に見合わせたりしている。服装においては、外出時など本人と相談して一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成して一人ひとりの好みを把握する。職員も利用者と同じテーブルで会話を交えて楽しく昼食を摂っている。できるだけ自分の力で食事ができるように箸、スプーン、器など本人に合った物を用意している	ユニット毎に利用者の好みを聞き献立を考えている。リクエストを聞き近所のレストラン出掛け誕生会を行っている。たこ焼き、お好み焼き等を作ったり、お弁当を買ってきて庭で食べたりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて調整し、水分はレクの後など食事以外でも飲む機会を持っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている。また必要に応じて歯科往診を受け、義歯の調整や口腔ケア指導を仰いでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、パターンを把握し、必要に応じた支援を行う。車いす使用、自力で立てない利用者も日中は介助にてトイレで排泄される	日中はトイレで排泄することを支援している。職員間で話し合い、利用者の状態に合わせて二人介助で行うこともある。トイレへ行き排泄に成功したとの事例から、夜間でも車椅子でトイレへ行く方もある	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録と申し送りにて排泄状況を確認、把握し、本人に負担無く早期に便秘が解消できるように支援する。予防として、食事、水分摂取を考慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や温度など一人ひとりの希望、こだわりに合わせて支援している。また利用者と職員が1対1で向き合い、楽しく語り合う場でもある。重度の利用者は機械浴で入浴できる	希望があれば毎日でも入浴は出来る。湯温や時間などの好みに合わせ、順番も考慮している。入浴を嫌がる方には職員を変更したり、日を変更したりしている。会話や歌を楽しみその人のペースでゆっくりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調を考慮し、本人のペースで安心して休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量は、個別ファイルにて把握する。服薬の支援は状況に応じて行い、症状の変化は確認に努め、随時看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや趣味を把握し、個々に合ったレクを提供したり、全員で楽しめる歌やゲームを支援している。本人の希望がある時は、個別に楽しめるものを提供し応じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時や天気の良い日は屋外に出て、散歩したり、ベンチに腰かけ日向ぼっこや玄関の花を觀賞する。また年間行事計画を作り、ボランティアの協力の下、季節の行事や外出支援(外食)を行っている	季節毎に、イベント開催中の公園等へ出かけている。帰宅や墓参り等を希望されるときは、家族にお願いして出かけている。利用者の助言を受けて耕作して、近くまで見にいっている。急に外出を望むときは、職員と一緒に近所を散歩している。	



グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品は利用者と一緒に同行し買い物に出かける、または職員が希望を聞き代わりに購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は代わりに投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが快適に過ごせるよう席の位置、温度調整など配慮する。玄関、フロアは季節に応じた手作りの物や利用者の作品などを飾り、行事の写真は車いすの利用者も見やすい高さで貼り出している。利用者同士や家族、職員と一緒に写真を見ながら会話を楽しんでいる	まぶしさに配慮して、天窓のカーテンを厚手に替えた。廊下の日当たりの良い場所にソファを置き、利用者の憩いの場所としている。玄関や居間、食堂には利用者と一緒に作った季節の作品を飾っている。室温は利用者の視点で考えて設定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。また、和室にも座れる空間を設け、職員と交流したり、ひとりで貼り絵をするなどすごすことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が清潔で居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮している。本人の希望や身体状況に応じて、畳やカーペットを使用できる。壁にはお誕生日や行事の写真、作品などが貼り出している	希望に合わせて畳を敷くことも出来る。家族に依頼して仏壇、位牌、テーブルなどを持ち込み利用者・家族に相談して配置している。利用者が習字の時間に好きな字を書いたカレンダーが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせて、転倒事故などにつながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200018-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは年間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を作り実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、民生委員や福祉推進委員を通して情報の発信や交流について話し合っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している。行政、地域、家族とさまざまな分野から出席、情報提供や意見交換、提案があり事業所のサービス向上に役立っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に系列事業所が5つあり、市町村担当者との連携は総ホーム長が統括している。また市の介護支援連絡会で市町村担当者との連携を図る機会がある。消防署からは円滑に連携が図れるようにガイドブックが配布されており、救急連絡シートを事前に作成している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサー、柵の位置など適時見直しを行い、他に手だてを考えるなど検討する。玄関は日中施錠せず開放し、ユニット間も自由に行き来できる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別または全体で研修を行い、職員に周知徹底している。言葉の虐待(禁句)においては、全職員に禁句リストを配布し防止に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。(訪問の多い土日は、どちらかが勤務)他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に随時事務所で話を聞く機会を持っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市の介護支援専門員連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であることを忘れず、本人の話に耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど、支え合い助け合いながら共に生活が送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで家族に日々の出来事や本人の様子など情報を伝え、共有している。本人と家族の絆を大切に、共に本人を支援する関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力のもと、なじみの友人や近所の方が気軽に会いに来れるよう支援している。馴染みの方の訪問時は、以後も気軽に来れるように居心地の良い雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。日々のレクや月に数回の行事を通じて、利用者同士が関わり合い支え合う関係づくりを支援している		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時の受け入れ先や退所後も、本人や家族から相談があればいつでもサポートし、良好な関係を保っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや意向を聞き取り把握する。また困難な場合は、表情などから汲み取り本人にとって最善である支援ができるよう家族と情報の共有など協力し、本人本位の視点に立ち検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いて、本人、家族、知人の情報を元にこれまでの生活歴を全職員が把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個別記録に言動や身体状況の変化など記載し、移り変わりなど素早く気づけるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回及び必要時にはモニタリングを行い、課題ケアについての見直し、検討を行う。本人、家族、医療機関などと連携し介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況、ケアの内容など個別記録に記入し、職員間で情報の共有、把握を行っている。介護計画については、毎月のモニタリングにて現状に応じて見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて、その時々で必要な援助や支援に取り組んでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の变化に気付き、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。事業所では、定期的に看取りケアの研修を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施。地域の役員も訓練に参加している。土砂崩れや水害など災害に応じた対策を地域や行政、消防署と話し合っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心に配慮した関わり方を心がけている。プライバシーは排便、排尿などデリケートな事は他の利用者に来るだけあからさまにならないように気を配っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向をくみ取り、何でも気軽に言えるような関係作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースでその人らしく過ごせるように、本人の希望に沿うよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問する。本人と相談し、希望に沿った髪型にカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルで会話を交えて楽しく食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に記入し把握する。水分は、食事以外に10時15時入浴後と飲む機会を持つよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている		



グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、必要に応じた支援を行っている。立位困難の利用者も日中は二人で介助トイレを使用する。また意思を伝えられない利用者の場合は言動などからサインを見逃さないように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を把握し、水分補給の徹底、運動、薬による胃腸への働きかけなど、早期に対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や温度、入浴方法など個別に対応している。重度の利用者は機械浴で入浴する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調、気分に合わせて、安心してやすまれるよう支援する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量を個別ファイルに記載する。手渡しではなく利用者の口中に直接入れた後、服薬確認を行い落薬防止に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや趣味を把握し、個々に合ったレクを提供したり、全員で楽しめる歌やゲームを支援している。本人の希望がある時は、個別に楽しめるものを提供し応じている。また職員と共同で軽作業に取り組むこともある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を作成し、季節の行事や誕生日に合わせて外食の機会を持つ。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人が納得した上で金銭は事務所で預かる。必要な物品は、利用者と一緒に買い物に出かける、または職員が希望を聞き代わりに購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は本人に渡し、こちらから出す時は本人に代わり投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように席の位置、温度調整など配慮する。状況に応じて席を替える。フロアは季節に応じた手作りの物や利用者の作品、行事の写真が飾ってある		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。また、和室にも、座卓(掘りごたつ)があり、職員と会話を交えながらくつろぐ場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮している。また本人の希望や身体状況に応じて、畳やカーペットを使用できる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせ、安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		